



- 会長／林広一郎
- 副会長／小口裕司・宮坂晃介
- 幹事／北澤洋之介
- R 情報(会報)委員長／吉村栄二

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-1 ・ Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939  
URL: okayarc.org ・ Email: okayarc@bz04.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

## 第 2975 回例会 2022 年（令和 4 年）9 月 6 日(火)

点 鐘：林 広一郎

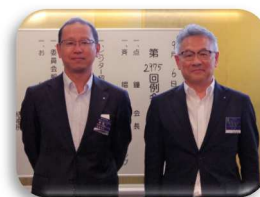
司 会：濱 毅

斉 唱：なし

ラッキーNo：NO. 32 上條英雄

皆 勤 祝：濱 俊弘 42 年・中嶋孝一 15 年・中村文明 13 年

誕 生 祝：佐伯克己・矢島雄一



誕生祝

※短縮例会（会食なし）

### 会長挨拶

皆さん、こんにちは。8月30日(火)に開催を予定していた例会につきましては、8月24日(水)に長野県内全域を対象とした「BA・5 対策強化宣言」が出されたことを受けまして、急ではありましたが休会とさせていただきます。皆様のご協力、本当にありがとうございます。幸いなことにここに来て、新規感染者数は減少に転じてきており、対策強化宣言は一昨日4日(日)無事終了となりました。ただ、依然として「医療非常事態宣言」は継続中です。感染警戒レベルも6のままです。そうしたこともあり、本日の例会も会食はせずにお弁当お持ち帰りの短縮例会とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

そして、本日はお客様がお越くださっておりますので、ご紹介いたします。岡谷警察署・署長の丸山鹿夫 様です。後ほど卓話をお願いしていますので、よろしくお願いいたします。

話は変わりますが、8月27日(土)「ロータリー財団地区セミナー」と「米山地区セミナー」が、いずれもオンラインで開催されました。当クラブからは、ロータリー財団委員長・宮坂有洪会員、資金推進少委員会副委員長・山岡俊幸会員、米山記念委員長・今井康善会員、そして私が参加いたしました。

主なテーマ・話題は、

- ① ロータリー災害救援基金を活用した日本からのウクライナ支援について(2630 地区・岐阜県 関 RC 財団担当者の事例発表)、
- ② ポリオ根絶の取り組みについて、
- ③ 元米山奨学生の方の苦労話(ロータリーへの思い)や近況報告。長野南 RC、マレーシア出身、現在は総合設備会社で電気設備工事(内線工事)に従事。

特にポリオについては、ここ 3 年あまりの新型コロナウイルス感染拡大の影響により、その存在がすっかりかすんでしまった状況です。しかし、講演を担当された国際 RC 第 2 地域ポリオ根絶コーディネーター伊藤雅基様(駒ヶ根 RC)のお話では、ポリオウィルスは天然痘ウィルスのように根絶したわけではなく、依然として地球上に存在している。日本や先進各国で発症者がみられないのは、医療体制が整い、乳幼児の頃から国が主導して計画的に予防接種が行われてきているからだということです。そうした一方で、海外では依然、ポリオが発症している地域があるとのこと。これからますますグローバルに人が行き来する中で、ポリオウィルスが天然痘の次の根絶ウィルスとなるように、私たちは引き続き、関心を持つ必要があると感じた次第です。

当クラブにおきましても、本年度の主要目標の一つとして継続事業である「ポリオ撲滅支援」を掲げています。この後、幹事報告として北澤幹事からこの件に関する募金の話があります。会員皆様のご協力をお願いします。

以上、本日もよろしくお願いいたします。

## 幹事報告

- ・次週、9月13日は、年間計画による指定休会です。
- ・次回は、9月20日、小口功会員による新会員卓話となります。
- ・世界ポリオデーの募金箱を本日より受付に設置いたします。世界ポリオデーは10月24日です。それまでに皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
- ・9月のRレートは、1\$ 139円です。

## 委員会報告

**親睦委員会** 9月27日に親睦ゴルフコンペを塩嶺 CC で開催いたします。同日、夜間例会を18時半よりメモリーで行います。夜間例会については、コロナの感染警戒レベルにより変更もしくは中止の場合もあり、このような状況下ではありますが皆様のご参加をよろしくお願いいたします。



### 卓話「岡谷警察署管内（岡谷市）の治安情勢」

岡谷警察署 署長 丸山鹿夫 様

皆様、こんにちは。

昨年の3月から岡谷警察署長として勤務しております丸山鹿夫でございます。よろしくお願いいたします。皆様には、日頃から警察行政に対し、格別の御理解と御支援をいただいておりますことに、心から御礼を申し上げます。また、今日お出でになられる方のうち、約半分の方が岡谷警察官友の会の会員の方々であるとお聞きしました。

会員の方々には、いろいろな面で御支援をいただいているにも関わらず、コロナ禍とはいえ、皆様を前に日頃の御礼を言えないまま1年半が経過してしまっていることに対して、この場をお借りして深くお詫びを申し上げます。さらに、本日は、皆様へのご挨拶やお話の機会をいただきましたことに、感謝を申し上げます。

それでは、早速ではございますが、お題となっております岡谷市の治安情勢につきまして、ご説明をさせていただきます。お手元の資料のうち「岡谷警察署管内の治安情勢(令和3年中)」と題する書面をご覧ください。

○先ず「犯罪発生・検挙状況」であります。

「刑法犯(総数)の状況」をご覧ください。

表の中にあります刑法犯の認知件数ですが、昨年は122件を認知しました。その前の年は202件でありましたが、この年は、捕まえた万引き犯人が余罪多数を自供したものの、その余罪の殆どが警察に被害届を出していないか、または、そもそも被害自体に気付いていなかったという事が判明し、このような未届けであった被害届を、後に改めて多数追加受理したため、令和2年の認知件数が多くなったものであります。従いまして、その万引きの追加被害受理を除けば、令和2年の認知件数も少なく、年々犯罪の認知件数は減っているという事をご理解願います。

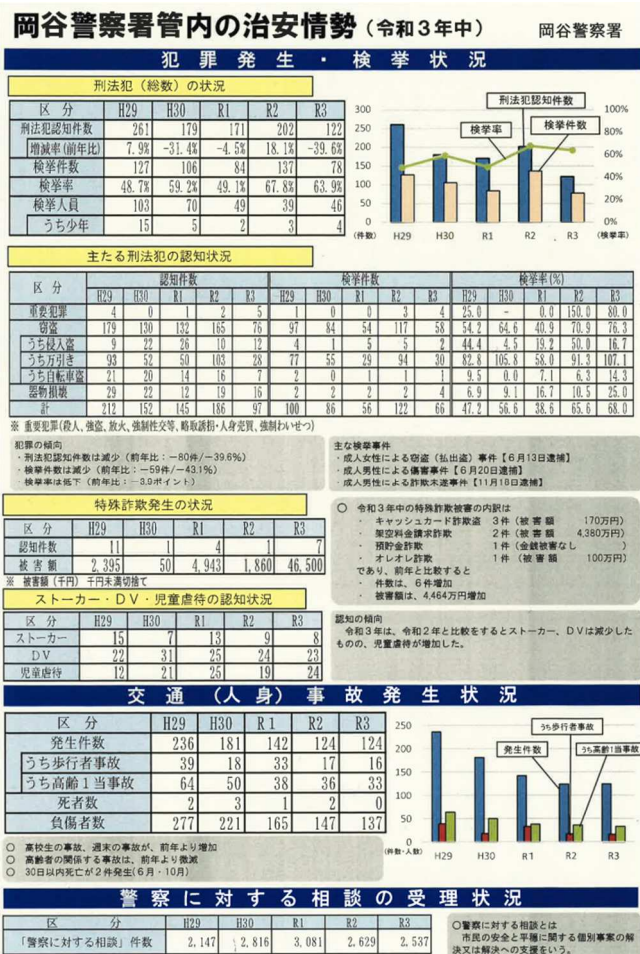
次に「主たる刑法犯の認知状況」です。

刑法犯の中で、主な犯罪を表にしたものです。重要犯罪とは、文字どおり、殺人、強盗、放火、かつて強姦と言っていた強制性交などの凶悪犯罪を示します。表の左側の認知件数を見enいただきますと、過去5年の中で、昨年は5件と一番多くなっております。5件のうち4件は犯人検挙になっております。未検挙の残り1件は、昨年夏、湖畔地籍で発生しました、棒状のもので怪我を負わせ現金を奪い取ろうとした強盗致傷事件であり、現在も本部刑事部の応援を得ながら、犯人検挙に向け捜査を進めているところであります。

○次に「特殊詐欺発生の状況」をご覧ください。

皆様、既にご承知のとおり、長野県警は今年4月1日付で、市民向けの犯罪名称を、『特殊詐欺』から『電話でお金詐欺』に変更しました。県民の方から「特殊詐欺って何?」「分かりづらい」というご意見があり、被害防止の啓発を強化するための一施策として、県民に分かりやすい名称として『電話でお金詐欺』になったものであります。

昨年は7件も認知してしまいました。その前の年が1件だけなので、昨年は激増したことになります。また件数だけでなく、被害額につきましても4,650万円と、過去に例を見ない被害額になってしまいました。この被害額のうちの4,300万円は1人の方の被害額であり、昨年の県下における最高額が、ここ岡谷市で出てしまったものです。なお、7件という被害認知件数は、あくまでも岡谷警察署が昨年正式に被害届を受理した件数であります。実は、それ以外にも被害に遭い、警察へ通報まではしたものの「被害額が少ないから」「今回はしたと思って」「恥ずかしくて正式になど届けられない」等の理由により正式に被害届





を出さなかった人が複数います。また、そもそも警察への通報すらされていない、警察が承知すらしていない被害も多数ある事と思います。ですので、「なんだ、岡谷市内の電話でお金詐欺は、たった一桁の7件か」と思われるのではなく「実際はもっと多くに人達が被害に遭っているのだ」と想像していただき、皆様には、より一層危機感を持っていただければと思います。なお、7件の被害のうち3件は、犯人を検挙・解決しており、この検挙を切っ掛けとして、県内・県外を問わず、多数の余罪事件を解決しております。

ちなみに、今年はまだ4か月を残して、既に6件の被害届を受理しており、その被害額の合計は、県下市町村で1、2を争う勢いになってしまっております。なぜ、県下市町村で1、2番の被害額になっているかと申しますと、1件は、今年県下で2番目に高い被害額である2, 100万円、もう1件は、県下で3番目に高い被害額である1, 700万円、さらに1, 000万円と、1, 000万円を超える被害が3件も発生しているためであります。6件の被害者は全て80代の女性です。うち多額被害3件は、犯人グループが考えた子供のトラブル話を、被害者が信じ込み、子供のために何とかしなければという親心から、自宅周辺で犯人に現金を渡してしまったものであります。

我々警察は、市をはじめとした行政機関、防犯に携わる各種団体のご協力を得て、住民個々に対する被害防止の呼びかけを行っております。また、たとえ信じてしまったとしても、犯人に渡す現金さえ用意できなければ被害を防げるわけですので、現金の出し入れ等に携わる金融機関や、ATM のあるコンビニに対し、被害防止のためのお客様への声掛け、いわゆる水際対策を行ってもらい、事実これら店舗の従業員によって被害に遭う現金の引出しを多数阻止してもらっているところです。しかし、いくら水際対策を強化してもらっても自宅にある現金を使われてしまつては、第三者が間に入って阻止することは不可能です。ここで言えること、それは『電話で犯人と会話をしてしまったら騙されてしまう。だから電話で犯人と会話をさせないようにする』『そもそも多額の現金が自宅にあるから犯人に渡してしまう。だから多額の現金を自宅に置かないようにする』この2つをクリアしなければ、被害を止めることはできないということになります。

そこで、被害防止のための効果的な方法として2つが挙げられます。

1つは『自宅の固定電話は必ず留守番電話設定にいただき、その声や用件を音声で聞いてから電話に出るか判断してもらおう』そしてもう1つは『高齢者の方はお金を下ろしに行くのが面倒なためタンス貯金をしている。しかし、多額の現金を自宅に置いておくと詐欺は勿論のこと強盗や空き巣の被害にも遭う恐れがあるということを、身内であるお子さんから説明していただき、出来るだけ金融機関に預けてもらおう』ということです。新聞でご承知のことと思いますが、この緊急事態により、岡谷署では今月上旬から80歳以上の女性が居住する家へお邪魔して、警察官が一人ひとりと直接面接して防犯指導を行う、特殊詐欺被害防止のための緊急対策を実施しているところです。去年は7件、今年は既に6件、いずれの年も高額被害を出しております。

この2年間の岡谷警察署長は私であり、自分の指揮能力のなさを痛感しているとともに、岡谷市民の方々に対して本当に申しわけなく、日々反省しているところであります。今年認知している6件中の4件は犯人を検挙しておりますが、残り2件は未だ犯人検挙に至っておらず本部の応援を得て捜査継続中です。いずれにしても、電話でお金詐欺被害防止につきましては、全国、県ともに、犯罪の中でも最重要課題として位置付けており、ここ岡谷市にあっても他に優先して被害防止活動に取り組まなければならない状況でありますので、どうか引続き皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

# 電話でお金詐欺 に気をつけて！



## 被害防止のポイント

犯人は、息子、孫、官公庁や金融機関の職員、医師、病院の職員や警備員、弁護士、警察官、息子の上司や同僚、息子の上司の子供や甥、等に成りすまして、電話をかけてきたり、自宅にやってきます。

### ★ 電話で次の話が出たら絶対にサギです。

- 息子(孫)が病気や大怪我で手術をする。  
※身内が一大事だと不安にさせて冷静でいらなくなります！
- 病院へ収容された息子(孫)のカバンが盗まれた。  
※そんな都合良く盗まれません！
- 息子が会社に損害を与えた。  
※通常、そんなことは会社から親に言ってきません！
- 会社のため息子に代わって大金を用意して。  
※会社に代わり社員の親が用意することなど有り得ません！
- 半分は上司(上司の親)が出すので残りを用意して。  
※大金です。そんな上司などいません！
- 息子の代わりに上司の子供(甥)がお金を取りに行く。  
※上司の子供や甥がたまたま近くに居ることなど有り得ません！
- この件は警察や他の人に言わないで。  
※相談されると詐欺とバレてしまうため言わせないのです！
- 金融機関職員に払い戻し理由を聞かれても嘘を言って。  
※正直に答えると職員に詐欺だと見破られてしまうためです！
- 詐欺の犯人を逮捕したところ貴方の名前があった。  
※詐欺グループに狙われているからと不安にさせているのです！

- 利用している金融機関名を教えてください。  
※次は答えた金融機関名の職員の振りをして電話をします！
- 貴方が持っているキャッシュカードを預かる。  
※キャッシュカードを預かることなど有り得ません！
- 貴方のキャッシュカードは古いので交換する。  
※店舗以外でキャッシュカードを交換することなど有り得ません！
- 貴方のキャッシュカードの暗証番号を教えてください。  
※相手が誰であれ絶対に教えないでください！
- 還付金があるのでATMへ行ってください。  
※ATMを操作しながら手続きをすることなど有り得ません！
- 携帯電話はつないだままにしてください。  
※警察や身内などに相談させないための犯人の手口です！

### ★ 相手が自宅などに来て次の話が出たら絶対にサギです。

- (自分から「〇〇さんですね」の問い掛けに)「はい」。  
※電話で取りに行くと言われ本来来たので信じ込んでしまう！
- キャッシュカードを預かります。  
※たとえ金融機関でも自宅に来て預かることは有り得ません！
- 明日新しいキャッシュカードを持って来ます。  
※明日まで不審に思わせず、その間にお金引き出されます！
- キャッシュカードを封筒に入れて保管してください。  
※保管するに「封筒に入れて」と言うこと自体不審です！
- 暗証番号を書いた紙も封筒に入れてください。  
※「なぜ暗証番号のメモを入れるのか？」疑問を持ってください！
- 封筒を封印するので印鑑を持ってきてください。  
※印鑑を取りに行ったときに二枚のカードにすり替えられます！
- 携帯電話で指示するとおりにATMを押してください。  
※相手の指示する手順は他人口座への振り込み手続きです！

～登場人物や話を変えてくることに十分注意してください。～

岡谷市・岡谷市防犯協会連合会・岡谷警察署

通報・相談先 岡谷警察署 0266-23-0110

○次に「ストーカー・DV・児童虐待の認知況をご覧ください。

これにつきましては、多少の浮き沈みはあるものの、過去5年あまり変わりはありません。ただ、家庭内暴力と言われるDVや児童虐待について申し上げれば、ここ岡谷市内において毎年20人以上の大人がDV被害に遭い、同じく平均20人以上の子供が児童虐待の被害に遭っています。また、中には長期間にわたり頻繁に被害に遭っている方もいます。しかし、DVや児童虐待の被害者からの積極的な被害申告は望めません。それは、同じ家に住む身内が加害者になることが多いからです。皆様、こういった被害者を埋もれさせないためにも、日頃生活する中において、近隣住民、職場の同僚、子供の友達など、何か違和感を感じたら警察への積極的な情報提供をお願いいたします。

○次に「交通(人身)事故発生状況です。

昨年のけがを伴う交通事故の発生件数は124件でありました。年々減少傾向にある事がお分かりかと思えます。事故形態を分析しますと、昨年はその前の年と比べ、交差点における出会い頭の衝突事故、幹線道路ではない細い道での接触事故が増加しました。死亡事故については、昨年はゼロ件でありました。過去5年で死亡事故ゼロというのは初めてであります。ただ、住民にお示ししている死亡事故の件数は統計に基づくものであります。統計では、交通事故発生後24時間以内に亡くなられて方のみ死亡事故としてカウントしております。つまり、事故後病院に搬送されたり、自宅に帰るなど24時間以上経ってから死亡が確認されたものは、たとえそれが交通事故を原因とするものであっても、死亡事故としてのカウントはされないのです。実は、昨年交通事故が原因で24時間以上経ってから亡くなられた方が2名おられます。ですので、統計上ゼロ件とは言うものの、実際交通事故が原因で亡くなられた方は2名おりますので、電話でお金詐欺同様、統計数字のみ



にとらわれることなく、その裏にも隠れた数字があるのだということを想像していただき、交通事故にも危機感を持っていただければと思います。

○最後に「警察に対する相談の受理状況」であります。

昨年の相談件数は2,537件でありました。相談の内容は様々ですが、その中でもDVと児童虐待に対する相談件数の割合が多くなっています。つまり、警察に対し家庭内での暴力相談が増えているということをご理解願います。

以上、岡谷警察署管内岡谷市における治安情勢についてご説明させていただきました。

さて、このような治安情勢の中、一昨年から新型コロナ感染、ウクライナ紛争等で世界の情勢が目まぐるしく変化し、これらに対応するため皆様が大変なご苦勞をされている事は、日頃様々な企業の方からお窺いしております。お聞きする度に「計り知れない苦勞をされている各企業の方々に対し私達警察ができることは何か？」を考えさせられるところです。

そのような中、私ども岡谷警察署といたしましたは、岡谷市で活動される皆様のため、

○企業の財産を盗難・恐喝・詐欺等の犯罪から守ること

○企業のイメージを暴力団等の反社会的勢力から守ること

○企業の運営や機密事項をサイバーテロから守ること

○社員の方々の大切な命を交通事故から守ること

等、引続き各種対策に取り組んでまいります。何かお困りのことがあればご相談ください。

最後に、大変僭越ではございますが、一組織の長として一年を通し私が署員に指示している事3つをお話させていただきます。

1つ目は、人として「常に相手の立場に立って物事を考え、言葉に出し、行動する」です。この相手とは、地元住民、民間企業、各種団体、職場の上司、同僚、部下、家族、知人、被害者、目撃者、例えそれが犯人であったとしてもです。前例踏襲で物事を考えず、その時その時の相手の立場を考えてから発言や行動を取りなさいということです。

2つ目は、社会人として「基本を知らずして、応用は行わない」です。

物事には必ず根拠や基本というものがあり、それを知った上で効率的にという意味で応用を効かせるのは良いのですが、根拠や基本を理解していない人が応用を行うと必ず失敗します。具体的に言えば、新人を実践指導する時、先輩が最初から応用を教えてしまうと、その新人はそれが正しいことと思い込んでしまい、次回一人でやるときも応用でやってしまうため、これが組織にとって取り返しのつかない事態を招いてしまうことがあります。逆に、基本を十分に理解した上で応用を行う人は取り返しがつかないほどのミスはしません。

3つ目は、警察職員として「事件事故や業務の大小に関わらず、全ての仕事を一つひとつ丁寧に行う」です。

これは、社会的反響の大きな事件ではないから、正式に被害届が出されていないから、僅かな金額の落とし物届けだから、ではなく、たとえどんな些細な事であっても事案の優劣をつけず、犯人検挙のため、事案解決のため、出来る限り一つひとつ丁寧に仕事をしなさい、皆にとっては日々多数取り扱う事案の一つに過ぎないかもしれないが、相手にとっては警察に関わることなど人生で1～2回しかないことなのだから、そのたった1～2回の対応で警察という組織のイメージも決まってしまうのだから、ということです。

この3つを署員一人ひとりに理解してもらい、日々の業務を行っております。

また、参考ではありますが、最近私は署員に対し「スペシャリストやエキスパートと呼ばれる人よりも、オールラウンダーと呼ばれる人になってほしい」と言っております。その道のプロになることは非常に大事なことでありますが、日頃この人だけに頼っている余り、この人が突然コロナで休んだり長期出張に行ってしまうと、その仕事は進みません。わざわざ電話をくれたり来てくれた住民に「今日は担当がいらないため分かりません、できません」となってしまいます。それに、ライフワークバランスが叫ばれる時代、頼もしいスペシャリストであっても休暇は取らせなければなりません。スペシャリストと同様とまでは言いませんが、代わりに最低限の対応が取れる人がいるからこそ、スペシャリストも安心してその人をお願いをし休めるのです。また、スペシャリストやエキスパートと呼ばれる人材は尊敬すべき対象ではありますが、その一方で得意な業務しかできない、他の業務が困っていても助けることができないという面もあります。自分に与えられた業務だけでなく、他の業務が困った時でも「それなら私できますよ」と言ってくれる救世主、いわゆるオールラウンダーという人材がいるからこそ組織が回っていられるのだと思います。

4つの業務をこなさなければならない部署があったとします。それぞれの業務のスペシャリスト4人を配置するより、オールラウンダー2人を配置した方が、業務に穴を開けることなく休みを交替で取れます。オールラウンダーであれば、1人で幾つもの業務がこなせるわけですから、人件費も考慮した効率的な業務推進にも繋がります。そのため、私は「その道のプロになろう」というより「オールラウンダーになろう」を優先し署員に言い聞かせてます。

以上、申し上げましたとおり、今後もこれらの気持ちを忘れることなく、岡谷市の安全・安心のため、署員一丸となって各種警察業務に取り組んでまいります。

結びに、ロータリークラブの益々のご発展と、ここにおいでの皆様方のご健勝・ご多幸をご祈念申し上げまして、私の話とさせていただきます。

ご清聴、誠にありがとうございました。

## ニコニコボックス

大橋正明 創業記念日です。

山岡俊幸 創業月です。一年一年頑張ります。

西澤 賢 創業月8月に迎えました。91周年になります。地域のお役に立てますよう引き続き頑張ります。ご支援の程よろしく願いいたします。

今井康善・梅垣和彦・太田博久・大滝祐吉・大橋正明・小口 功・小口 隆・小口智之・小口泰史・小口裕司・尾関秀雄・上條英雄・北澤洋之介・小宮山英利・佐伯克己・杉村邦彦・瀬戸雅三・高木克彦・竹村一幸・中嶋孝一・西澤 賢・濱 毅・林広一郎・林 裕彦・平沢清文・宮坂晃介・宮坂 伸・宮澤由己・守屋麻里・矢島 進・矢島 貴・矢島 実・矢島雄一・山崎典夫 岡谷警察署署長 丸山鹿夫様、本日はよろしく願いいたします。

## 出席報告

会員数50名、出席者36名、出席率72.0%

2022-2023年度 RIテーマ

Rotary



IMAGINE  
ROTARY



IMAGINE  
ROTARY